

矯正歯科ご来院の患者様へ

「研究課題：抜歯症例と非抜歯症例の比率の変化」ご理解とご協力のお願い

矯正治療の目的は、よく咬める咬みあわせ、口もとの美しさ、そしてその安定性を得ることといえます。

特に永久歯列の治療に対しては、この目的のために、非抜歯法（歯を抜かないで治す方法）、あるいは抜歯法（歯を抜いて治す方法）が選択されます。

さまざまな装置が開発される中で、非抜歯法を行うための各種装置の発達が近年の特徴といえます。

そこで、過去の例（今回は約 20 年前）と現在とを比較し、非抜歯法が増加しているかどうかを知ることは、今後のよりよい装置の開発と的確な治療方針の立案に貢献するものと考え、上記の研究を計画致しました。

研究実施における医学倫理上、

- 1) 研究対象者の人権擁護に配慮するため、氏名などの個人情報については公表致しません。
- 2) 本研究によって生じる、研究対象者への不利益と危険性は全くありません。
- 3) 使用後の資料等はこちらの管理下できちんと破棄致します。

以上のような配慮を致します。

どうぞご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

なお、この研究に対してのお問い合わせは研究代表者茂木までお願い致します。

平成 年 月 日

東京歯科大学 歯科矯正学講座 教授 末石 研二
准教授 茂木 悦子